

障害者の生涯学習支援

～生涯学習に係わる効果的な学習プログラムの実践～
千葉県立特別支援学校市川大野高等学園

電話 047-303-8011

FAX 047-303-8191



研究のポイント

学校を卒業した障害者が、社会で自立して生きる上で必要な学びのニーズを探るために行ったアンケート調査をもとに、「学ぶ」「楽しむ」「つながる」の3つのプロジェクトを実施した。持続可能な取組を目指して「学校支援サポーター」や開かれた学校づくり委員会を活用した～生涯学習支援 市川大野モデル～の構築を図った。研究成果を県内の特別支援学校等へ周知するためのリーフレットを作成した。

■学校の概要 <https://cms2.chiba-c.ed.jp/ichikawaono-sh/>

知的障害のある生徒を対象とした、専門学科を置く高等部単独の特別支援学校として、平成24年4月に開校した。

専門学科として、園芸技術科、工業技術科、生活デザイン科、流通サービス科の4つの学科を設置し、各学科24名、1学年96名の定員となっている。4つの専門学科はさらに9つのコースに分かれ、本物のものづくりやサービスを目指し、実践を積み重ねている。社会的・職業的自立を図ることを目的とし、「本物の働く力」「確かな生きる力」「豊かな学校生活」「地域とともに」をキーワードとして、働く生活に必要な基礎・基本を育み、豊かな生活を送れる人材の育成を図っている。

■研究課題

学校卒業後の障害者が、社会で自立して生きる上で必要な学びや支援を明らかにし、具体的な学習プログラムや支援体制等について考察する。

■研究の目的と方法

【目的】

学校卒業後の障害者が、社会で自立して生きる上で必要な学びや支援を明らかにし、卒業生の余暇の充実や社会生活への移行を支援する。

【方法】

- ・「学ぶ」プロジェクト、「楽しむ」プロジェクトとして、生涯学習講座を実施する。
- ・生涯学習講座受講者へ「卒業後の学びに関するアンケート」を実施し、実態把握を行う。
- ・「つながる」プロジェクトとして、在校生には情報提供や外部講師を活用した学習活動を提供し、卒業生には情報提供や相談支援を実施する。
- ・地域の関係者や支援機関等と意見交換し連携を図るため、開かれた学校づくり委員会内で意見交換を行う。
- ・研究成果をまとめたリーフレットを作成し、県内の特別支援学校等へ配布する。

■研究概要

【主な実践と成果】

I 生涯学習講座 ～「学ぶ」プロジェクト、「楽しむ」プロジェクト～

- ・1年目のアンケート調査から作成した学習プログラムをもとに、生涯学習講座を2講座実施した。
- ・「学ぶ」プロジェクトでは「障害年金って何？」というテーマで、障害基礎年金の概要や受給までの手続きなど、具体的な事例を通して解説した動画を計3本、本校ホームページに掲載した。
- ・「楽しむ」プロジェクトでは「自宅でできるセルフケア」というテーマで、自宅でできるコンディショニングの動画を計5本、本校ホームページに掲載した。
- ・講座の満足度やニーズ、有効な情報発信のツールを調査するため、ウェブアンケートシステムを利用してアンケートを実施した。

II 「つながる」プロジェクト

- ・学校ホームページに「生涯学習」のページを開設し、情報提供や動画配信に活用した。
- ・SNSのアカウントを利用し、卒業生向けに本校で実施する生涯学習講座の案内、動画配信等を行った。
- ・卒業生の個々のニーズや相談に応じるため、ビデオ会議システムを利用した相談支援「卒業生のホットルーム」を開設した。
- ・在校生向けに、千葉県内で開催されている公開講座やサークル活動、オンライン講座等について、校内の掲示板で情報提供を行った。
- ・在校生が社会資源を知ること、活用することを目的として、生涯学習についての学習を総合的な探究の時間に実施した。
- ・地域のスポーツ団体と在学中からかわることを目的として、部活動（テニス）の外部講師に地域人材を活用した。

III 開かれた学校づくり委員会

- ・開かれた学校づくり委員会の中で、当事者や地域の関係者と意見交換を行った。

IV 学校支援サポーター

- ・生涯学習講座の講師や当日の運営の人材を確保するため学校支援サポーターを導入した。令和元年度は4名、令和2年度は1名が登録し、在校生の学習支援や部活動指導にあたった。次年度からは団体としての登録を検討する。

V リーフレット

- ・研究成果を周知するためのリーフレットを作成し、県内の特別支援学校や市川市内の小中学校へ配布する。

【今後の展望】～持続可能な取組を目指して～

- ・学校運営協議会の中に生涯学習部会を設置し、生涯学習支援の企画や運営について議論する場とする。
- ・講師は地域の人材を活用し、当日の運営は「学校支援サポーター」を活用する。
- ・講座の案内は学校ホームページやSNSを利用すると同時に、地域の窓口として柏井公民館とタイアップしていく。講師への謝礼は参加者から徴収することで、コストのかからない方法で運営していく。

関連資料

- ・リーフレット「生涯学習支援 市川大野モデル」（2021年3月発行）

【講評】

市川大野高等学園の実践について

今年度は、感染症拡大の影響により、卒業生を集めて生涯学習講座を実施することが難しい状況でした。そのような状況でも、学校ホームページ等を活用したオンライン講座の提供により、卒業生の生涯学習を支援してくださいました。好きな時に好きな場所で学ぶことができる新たな生涯学習の形として、今後の取組を期待しています。

また、「総合的な探究の時間」で生涯学習について取り上げ、児童生徒が生涯にわたって学び続けようとする意欲を高める取組が行われました。

この研究が他校にも広く周知され、今後各校で、障害者の生涯学習への取組が進む中で、児童生徒が生涯学習のイメージを持ち、生涯にわたって学び続ける意欲を高めることを期待します。

3年間研究にご協力いただき、ありがとうございました。